

かがわ里海づくりパートナー活動報告

令和 7 年 6 月 2 7 日

香川県知事 殿

所在地 香川県坂出市室町二丁目 3 番 5 号

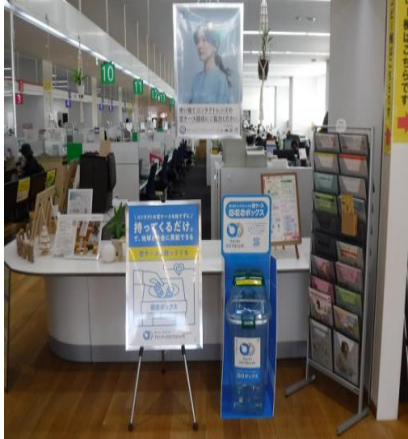
名 称 坂出市

代表者職・氏名 市長 有福哲二

かがわ里海づくりパートナー登録制度実施要綱第 10 条の規定により、年間の活動状況について報告します。

主な里海づくり活動内容	参加人数
【ワンウェイプラスチック削減・マイボトルで利用できる給水機の設置】 本市では、海洋プラスチックごみの原因となっているペットボトルなどのワンウェイプラスチック製品を削減する取り組みを行っています。坂出市庁内プラスチックスマートアクション方針を策定し、市が主催する会議等ではペットボトル飲料の提供を取りやめるなど庁内一丸となり取り組みを進めています。 また市内にマイボトルで利用できる給水機を屋内型 11 台、屋外型 2 台を設置し、令和 6 年度はおよそ 58,000 利用され、500 ml ペットボトルおよそ 11.6 万本分が削減できております。	 全市民 全職員

【夏休みこども環境教育講座 海の生態系を守ろう！櫃石島で海ごみ大調査！】 8月に本市とかがわ里海大学協議会が主催となり、かがわ里海大学オーダー講座を活用した環境教育講座を開催しました。櫃石島の海岸で漂着物を回収し、海ごみリーダーから海ごみと環境問題の関係について学びました。		親子 4 組 11 人
【アマモ場での観察講座の実施】 6月にかがわ里海大学協議会が主催、本市が共催となり、アマモ場観察講座を実施しました。講義では、香川大学創造工学部長の末永教授からアマモ場の役割などについて説明を受け、その後、実際にフィールドワークを行い、生き物観察やアマモの観察を行いました。		親子 20 名 程度
【ハブラシのリサイクル活動】 本市とライオン（株）、ライオンケミカル（株）オレオケミカル事業所の 3 者で取り組んでいる「キレイキレイのまち坂出プロジェクト」の一環として、ハブラシリサイクル活動を開始しました。使用済みのハブラシをゴミにせず、回収して再生プラスチックとして活用する取り組みを推進し、令和 6 年度は、公共施設や学校など 36 カ所に設置し 31.1kg（約 3,110 本）を回収し再利用するなど環境保護活動を行っています。		全市民 全職員
【香川大学と連携した藻場の再生・創出事業】 本市と香川大学は令和 6 年 2 月に締結した藻場の再生・創出に関する覚書に基づき、令和 6 年 11 月に小与島沖へ藻場造成構造物を 4 基設置し実証事業を開始しました。沈設した構造物は小型生物の着生を促進する機能や、着脱可能部分を他の海域における同型の構造物へ移植することで、新たな藻場造成が可能となっております。今後も実績結果を考察しながら、事業の拡大を図り、藻場の再生・創出に取り組んでいきます。		大学関係者・地元漁業協同組合・市職員など 20 名程度

【小学校への出前講座】 本市が進めているゼロカーボンシティ実現に向けた具体的な取り組みを説明するために小学校に講師派遣を行いました。(全3回)児童の皆様に向けて、本市が進めるプラスチックごみの削減にかかる取り組みも含めた環境問題について考えるきっかけづくりを行いました。		1回目：6年生 44名 2回目：3年生 37名 3回目：3年生 68名
【ボトル to ボトル事業】 本市とサントリーグループは令和6年10月に協定を締結し、使用済みペットボトルを資源とし、再び新しいペットボトルとして生産する取り組みを推進しています。従来の生産方法に比べCO2を約60%削減することができるため、資源循環や地球温暖化の抑制につながります。		全市民
【使い捨てコンタクトレンズ空ケースの回収事業】 本市とHOYA（株）アイケアカンパニーは令和5年11月に協定を締結し、本来はごみとして廃棄される使い捨てコンタクトレンズの空ケースを回収し、ボールペンなどの再生品として新たに生まれ変わるリサイクル活動を進めています。令和6年は約50kg回収しました。また、リサイクル業者に買い取ってもらう際の対価を、公益財団法人日本アイバンク協会に寄付することになっており、社会貢献の役割も果たしております。		全市民 全職員